

「銭湯多くして船村徹」と今まで何度言ってきたことか。思い出すと、恥ずかしくて顔から火が出そうです」

「アキナスは秋茄子のことだったとは・・実はまだ少し信じられません」

などなど「正しい諺教室」に対する大きな反響に、少し戸惑いつつも、ちやっかり第3弾です。

やっぱり、あなたも諺（ことわざ）を間違っ使っていませんか？

吐血（どけつ）にいらつくんだ。こいつぁ、AIDS。 （間違い）

AIDS：エイズと発音する。「後天性免疫不全症候群」と訳す。

身体の抵抗力が極端に落ちて、普通の人なら病気になる病原体の感染でも重病になり、死ぬことが多い病気を意味する。

最近日本でもAIDSが急激に増えてきたという。テレビや新聞では、さかんにAIDSに関する正しい知識が必要だと言っている。

神経性のストレスから生じた吐血でも、過去にやましい行為をした者は『もしかしたら、俺ってAIDS。』と勝手に思い込み、恐怖と不安で更にストレスを加速させ、かえって症状を重くしてしまうという。

「人間というのは、思い当たる節があると、冷静に客観的に見れば何の因果関係も無いと判断できるものでも、悪い方悪い方へと思い込んでしまうものだ」との喩え。

虎穴（こけつ）に入らざれば虎兇（こじ）を得ず が正しい。

虎のすむ洞穴に入らなければ、虎の子は得られないの意から、「何事も危険を冒さなければ、大きな成果を得ることはできない」という喩え。

水虫、タムシ、癩（しゃく）だぜ （間違い）

皮膚科でもっともポピュラーな病気である「水虫」も「タムシ」も、白癬菌（はくせんきん）というカビによっておこる。

この菌は土の中でも畳の中でも、どこにでも存在するが、「家人」に水虫の人がいると、その分、家の中の量は多くなる。特に子供の「タムシ」の場合、両親のいずれかが「水虫」にかかっていることが多いという。この白癬菌のはびこる身体の部位により、それぞれの病名がついていると考えてよい。足なら「水虫」、陰部なら「タムシ」というわけだ。

「水虫」と「タムシ」の両方に攻撃されていると思ひ込んでいても、同じ薬で治ってしまい、『なあんだ、同じ病気だったのか！』と後で知り、2倍も悩んでいたことを馬鹿馬鹿しく思う。いちいち名前が違うところが癩の種なわけだ。

全く違うものだと思うていたものが、実は同じものだったり、同系統のものであったり

したことがわかると、それまでの調査や研究が、実は半分の労力や時間で済んだんだと気づき、「いちいち違う名前がついている」ことが癪にさわる、との喩え。

三つ子の魂百まで が正しい。
幼少時代の性格や性質は年をとっても変わらない、という意味。

アクセス ミニスカポリス (間違いない)

「出動！ミニスカポリス」…東京テレビ系列で1996年8月に放送が開始された自動車情報バラエティ番組。現在8代目ポリスが活躍している。

初代ポリスに、バラエティ・タレントとして人気のある、さとう珠緒が在籍していたことは、意外と知られていない。

「カー情報＋お色気」で売っているが、当初はまじめな自動車情報バラエティ番組であった。ただし、番組制作者のモットーが「より安く、より視聴率をとるように」であったため、低俗化、破廉恥化への道を辿ることは目に見えていた。

「諺として、どんなに含蓄のあるものであったとしても、それがミニスカポリスを喩えたものであるなら、もはや軽薄、低俗の誇りは免れない」というところから、「重要な話に軽薄な喩えを使うと、話そのものを軽くしてしまう」という意味で使われる。

諺の存在そのものが自虐的な意味を持つ、変種・新種の諺であり、使用する際、TPOに注意を要する危険な諺としても有名である。

悪銭、身に付かず が正しい。

不正な手段で得た金は、つまらないことに使い、すぐになくなってしまおうという意味。

超短編シリーズはフィクションです。念のため